

第1学年 国語科の実践

1. 単元名

のりものクイズ大かいをしよう！ 「いろいろなふね」東京書籍1年下

2. 単元の目標

- ・主語と述語の関係や、説明のための基本的文型に注意して読むことができる。

【知識・技能】

- ・大事な言葉や文に着目して、書かれている内容や順序を読み取ることができる。

【思考・判断・表現】

- ・乗り物に興味をもって教材文を読んだり、好きな乗り物について図鑑で調べたりしようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 学習活動について

(1) 児童について

本学級は、男子9名、女子11名である。7月に行ったアンケートでは、国語が好き14人、まあまあ好き4人で、9割の児童は、国語が好きと答えている。お話の大事なところや出てくる人の気持ちを考えることができましたかという質問には、よくできた9人、まあまあできた7人で、あまりできなかった2人、全くできなかった2人となっており、読み取りについて、自信がもてない児童がいることがわかった。また、文字を読んだり書いたりするのが難しい児童が数名いる。1学期の様子から、文字が読めていなかったり、書いている内容を文章として読むことができなかったりすることが、読み取りの困難さにつながっているのではないかと考え、2学期は、読書活動の推進や、ことば遊びなど語彙を増やす活動を日々の学習に取り入れている。

1学期は「どうやってみをまもるのかな」の単元で説明文の学習を行った。3つの動物について文章から内容を正しく読み取り、「動物図鑑」をつくることをゴールにして学習を進めた。挿絵や動画で、イメージをしながら教材文を読み取る学習をした。多くの児童は、教材文に書かれた動物の体の特徴や身の守り方についてキーワードを正しく読み取っていたが、ひらがなの読みの苦手さや、文章を読むことの抵抗感から大事な言葉を抜き出すことに苦労した児童もいた。児童の読み取りの力や、学習意欲に個人差があるため、適切な支援をし、読み取りを進めていく必要がある。

(2) 単元について

本単元は、新学習指導要領国語科の内容C読むこと「(1) 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」をもとに設定した。

本単元では、好きな乗り物について調べ、調べたことをカードにまとめて「乗り物クイズ大会」を開く学習を設定した。本教材は、特徴的な機能をもった4つの船を例に取り上げ、「やく目」「つくり」「できること」に分けて説明した文章である。「～は、～のためのふねです。」(やく目)、「～には、～や～があります。」「～は、～や～をつんでいます。」(つくり)、「～します。」(できるこ

と)とそれぞれの例示が同じ文型で説明されており、最初の読み取りを次の読み取りに活かせ、児童が大事な言葉を見つけやすい構成となっている。そのため読み取りが苦手な児童にとっても学習を進めていくことができやすいと考える。

(3) 指導にあたって

○研究の視点(1)

学ぶことに興味や関心をもち、課題解決への見通しをもって、学習に取り組めば、自分の思いや考えをもち、主体的に学習に関わろうとする子が育つであろう。

【①教材・学習課題との出会いの場の工夫】

本単元への興味・関心をもたせるために、「乗り物クイズ大会」を開催することを伝え学習を楽しみにする気持ちへとつなげる。さらに、11月にある子ども園の年長さんとの交流会でも「乗り物クイズ大会」を行い、学習への意欲を高めたい。

単元の導入場面では、教師が乗り物に関連する本を見て作成した「クイズカード」で、児童にクイズを出題する。クイズカードを作るためには、本に書かれている文章を短くまとめ、人に伝えやすくしなければならない。その練習として、教科書で4つの船の乗り物カードを作り、その後にクイズ作りを行う。友だちに答えてもらうためのクイズを作ろうと、児童は意欲を継続させて取り組むことができると考える。

本単元では、乗り物クイズに向けて、学級に乗り物に関連する本を置き、いつでも読める環境にする。児童はどの乗り物をクイズにしたらいいかを考えるために、たくさんの本を読むことが予想される。本は、学校司書と連携し、「やく目」「つくり」「できること」が1年生にも見つけやすいものを選定してもらう。

また、クイズカードを書くときの参考になるよう「乗り物読書カード」を用意しておき、いつでも記入できるようにしておく(図1)。記入する内容は、読んだ本の名前と気になった乗り物、ページ、クイズにしたいか(◎、○、△)である。この読書カードを記入していくことで、クイズをスムーズに作ることができる。

【②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化】

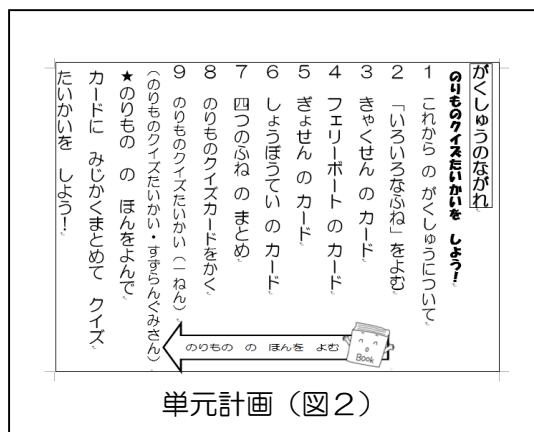
本単元の導入場面で、単元の流れを児童に提示し学習の見通しをもたせる。学習の流れは教室に掲示し、いつでも確認ができるようにする(図2)。

のりもの とくしょ カード

1ねん ばん なまえ ()

ひら	だいたい	のりもの の なまえ	ページ	クイズにしたい (◎・○・△)
✓			～	
✓			～	
✓			～	
✓			～	
✓			～	

乗り物読書カード (図1)



第2次の4つの船について読み取っていく学習では、授業の冒頭に前時をふり返る時間をもつ。また、めあての提示では、「 はどんなふねかな」という短冊を作成し、空欄部分にその時間に学習する船の名前を貼っていく。これらにより、児童が前時までの学習を想起しつつ、本時の学習に向かうことができると考える。

児童に提示するめあての横には、「～だいじなことをみつけて みじかくまとめよう～」という短冊も貼りつける。教師が願う達成目標を示すことで、この単元でやるべ

きことが、大事な言葉を見つけて短くまとめることだということが、児童に伝わるようにしたい。

できあがった乗り物カード（子どもと同じ形式のものを拡大したもの）は教室に掲示し次の授業で活用できるようにする。学んだことが書かれた乗り物カードを掲示することで学習の途中でも、見通しをもって学習に取り組むことができる。

○研究の視点（２）

子ども自身の思考や表現に結びつくような学習の場（学習プロセス）を工夫すれば、お互いの思いや考えを共有し合い、さらに深めていこうとする子が育つであろう。

【①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫】

（ワークシートの活用…乗り物カード、クイズカード）

本単元では、４つの船についてまとめていく場面で、乗り物カードに読み取ったことをまとめていく。ノートは字数やレイアウトなど制限があるが、ワークシートは文字の大きさが自由にできるので、１年生の児童にとっても書くことへの抵抗が少なくなると思われる。

また、抜き出す大事な言葉や文は、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色に塗りつぶした枠内に書いていく。言葉だけの情報では、なかなか整理できない児童もワークシートの記入する欄に色分けしてあると整理がしやすいと考えた。

（大事な言葉や文を見つけるための手立て）

読み取りの場面では、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色の色えんぴつを使って３色の線を引く。カードの枠内と同じ色になっているため大事な言葉や文をそれぞれの場所に書くときに範囲が限定され、抜き出しやすいと考える。

どこに線を引けばよいのかわからない児童がいれば、前時までの学習の掲示に目を向けさせて、客船やフェリーボートと比べさせる。乗り物カードに、どのように書いてよいかわからない児童がいれば、全体に問いかけ、カードに書くことができた児童に説明させる。みんなで話し合う時間をもつことで、児童の理解の助けになると考える。

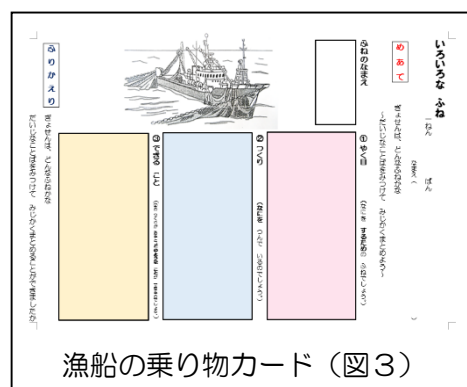
（前時までの学習について）

４つの船について読み取っていく際、最初の学習に当たる客船での学習は２時間かけて行う。「やく目」や「つくり」、「できること」の３つの構成になっていて、それを分かりやすくするために色えんぴつを使って線を引くことを伝える。また、文をまとめる時、その後の学習（フェリーボート、漁船、消防艇）に生かせるよう、短い言葉でまとめるなどのポイントを丁寧に指導していく。

【②ペア学習やグループ活動など、思いや考えを表現する場の工夫（思考過程の共有化）

（学び合いの場）

４つの船についてカードに短くまとめていく場面では、状況に応じて個人思考の途中で、全体の場で短くする方法を発言させたり、ペアで話し合いをさせたりする。そうすることで、短くまとめるやり方をつかむことができると考える。



（グループ学習）

単元の最後に行うクイズ大会では、児童が作った乗り物カードを使ってクイズ大会を行う。児童を4人ずつ、5つのグループに分けて1班ずつクイズを出題していく。そのために、大会の前時はグループで、メンバーが作ったクイズカードに書いてある文章が正しいか、短くまとめているか、分かりやすいかなどを話し合う時間を設ける。友達のカードを読み、自分のカードと比較することで、個人では分からなかったことに気付くことができ、お互いに意見を交換し合うことで、大事な言葉を見つけて、短くまとめるという学習が、より深まると考える。

【教員のICT活用について】

研究の視点（3）にあるタブレット端末の利用は低学年では行わないが、学習のねらいを達成するため次のようにICTを活用する。

①デジタル教科書

視覚的支援として毎時間の授業でデジタル教科書を活用する。本文や挿絵などを、素早くスクリーンに大きく映すことができる。本文の音読では、デジタル教科書を見せながら本文を読み進める。前に映してある文字を読むことで、児童は顔を上げて音読をすることができる。教員は、児童がきちんと口を開けて音読しているかどうか分かりやすい。挿絵を映すことでも、児童が、今何を見るべきかが分かりやすくなる。

読み取りをしていくときに、デジタル教科書の動画資料から作成した、客船の内装やフェリーポート内の駐車場、魚群探知機、消防艇のポンプの写真を見せる。教科書の説明だけではイメージににくいものも、写真を見ることにより分かりやすくなり、読み取りに活かすことができる。

②実物投影機

児童が線を引いた教科書を映し、どこに線を引いたかが全体に分かるようにする。また、児童が書いているものと同じ乗り物カードを前のスクリーンに映す時に、実物投影機を活用する。どこにどのように書くのかなど、口頭だけでは説明が伝わりにくい時に実物投影機で大きく映すことで、誰もが学習に取り組みやすくなる。

③スクリーンと板書の併用

普通教室では、壁にプロジェクタを設置し、左半面にスクリーンを貼れるようになっている。スクリーンでは、PCの画面（デジタル教科書）やiPadの画面、動画、ワークシートなど、様々なものを映すことができる。本単元では、スクリーンには、今何を学習しているかが分かる教科書本文や、挿絵、ワークシートを映す。黒板には、めあてを貼り、児童が発表した意見を書く。教科書本文や、ワークシートの拡大版は、スクリーンでも映すが、繰り返し見て確認するため、黒板にも貼りたいと考えている。

4. 本単元で身に付けたい情報活用能力

大切な言葉、文章を付箋やカードなどに書き出して整理する力（Bイ）

5. キャリア教育の視点

自分の考えをみんなの前で話す（自己理解・自己管理能力）

6. 指導計画と評価計画（全13時間 本時6／13時）

次	時	主な学習活動	評 価			
			知識 技能	思・判・表 (読むこと)	態 度	主な評価規準（評価方法）
I	1	学習の見通しを立てる。 ・本単元の流れを示す。（模造紙） ・本文を読み感想を書く。 ・教師が作成した「クイズカード」を使って乗り物クイズをする。 ・「乗り物クイズ」を行うことを伝える。 ・乗り物読書カードに記入することを伝える。（並行読書）			○	読乗り物についての文章を読んだり、好きな乗り物について調べたりする学習について興味をもって取り組んでいる。（行動観察・ノート）
II	2	「いろいろなふね」に出てくる船を整理する。 ・海の動画を視聴する。 ・全文を読み、文章の大体を捉える。 ・4つの船について整理する。	○	○		読どこにどんな船のことが書かれているか、内容の大体を読み取っている。（発言・ワークシート） 知主語と述語の関係に注意して文章を読んでいる。（発言・ワークシート）
	3	「きゃくせん」について読み取ったことをカードにまとめる。		○		読「きゃくせん」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、客船カードにまとめている。（乗り物カード・行動観察）
	4			○		
	5	「フェリーボート」について読み取ったことをカードにまとめる。		○		読「フェリーボート」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、フェリーボートカードにまとめている。（乗り物カード・行動観察）
	6 本 時	「ぎょせん」について読み取ったことをカードにまとめる。		○		読「ぎょせん」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、漁船カードにまとめている。（乗り物カード・行動観察）
	7	「しょうぼうてい」について読み取ったことをカードにまとめる。		○		読「しょうぼうてい」の「役目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけながら読み取り、大事な言葉に気を付けながらまとめることができる。（乗り物カード）
III	8	4つの船について読み取ったことをまとめる。		○		読4つの船がそれぞれの役目に合うように作られていることを読み取っている。（発言・まとめのワークシート）
	9	本を読んでクイズにしたい乗り物について調べ、クイズカードにまとめる。 ・クイズにしたい乗り物の本を読む。 ・3つの観点に分け整理し、クイズカードにまとめる。		○	○	読乗り物に興味を持って本を読み、「クイズカード」を進んで作ろうとしている。（行動観察・乗り物カード）
	10			○	○	読大事な言葉を見つけながら、乗り物について書かれた本を読み、乗り物の特徴がわかるようにクイズカードにまとめている。（行動観察・クイズカード）
IV	11			○	○	
	12	4人グループで、クイズカードに書いてある文章が正しいか、短くまとめるか、わかりやすいかなどを話し合う。		○		読本から正しく抜き出しているか、乗り物の特徴がわかるようなクイズになっているか、短くまとめているかが分かっている。（行動観察・クイズカード）
	13	乗り物クイズ大会を行う。 ・グループで出題する。			○	読友達の発表をしっかりと聞いて、クイズに答えようとしている。（行動観察）
課外		※子ども園年長さんとの交流会で乗り物クイズ大会を行う。				

7. 本時の学習

(1) 目標

漁船の「やく目」や「つくり」、「できること」について、大事な言葉や文を見つけながら読み取り、カードにまとめることができる。

【思考・判断・表現】（読むこと）

(2) 展開

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援（○）・評価（【】） I C T 活用
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてと学習の流れを確認する。 ○ノートにめあてを記入する。	○前時の教材文やワークシートを拡大して掲示し、学習の見通しがもてるようにする。
考える	ぎょせんは、どんなふねかな ～だいじなことをみつけて みじかくまとめよう～ 2. 「ぎょせん」の写真を見て、漁船にあるものを見つけて発表する。 ・あみがある。 ・人がいる。 ・アンテナが立っている。 3. 教科書41ページを読む。 ○教科書を読む。（黙読、音読）	〔デジタル教科書〕 ・児童がどこを学習しているか分かりやすいように、スクリーンに本文や漁船の画像を映す。 ○画面が消えても確認できるように、漁船の写真を黒板に貼る。 〔デジタル教科書〕 ・児童が声をそろえて読めるように、本文をスクリーンに映す。 ○漁船装備の確認のために、「あみ」や「魚のむれを見つけるきかい」の写真を黒板に貼る。
広げる・深める	4. 「やく目」、「つくり」、「できること」が書いてあるところを見つけ、色鉛筆で線を引く。 ○どこに線を引いたかを発表する。	○3つの観点が分かりやすいように、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色で線を引くように伝える。 ○どこに線を引いてよいか分からない児童には前時までのカードや掲示物で前回までの線の引き方を確認するように声をかける。
まとめる	5. 乗り物カードに「やく目」、「つくり」、「できること」を短い言葉でまとめる。 ○個人でカードに記入する。 ○どのように短くしたのかを発表する。 ○書いてあることを正しく読んで、カードをつくらせているかカードに書いたことを発表する	〔実物投影機〕 どこに線を引いたかを全体で共有できるように、児童が教科書に引いた線をスクリーンに映す。 ○3つの観点を、カードのどこに書いたらいいかが分かるように、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色に枠内を塗ったワークシートを配る。 ○書きにくい児童へのヒントとなるように、ペアや全体で考えを出し合えるように声かけをする。
		〔実物投影機〕 カードに記入したものが全体で共有できるように、カードをスクリーンに映す。

ふりかえり	やくめ：さかなをとる つくり：さかなのむれを見つけるきかいや、あみをつんでいる できること：見つけたさかなをあみでとること	○黒板にも漁船の「やく目」「つくり」「できること」を書いたものを貼り、児童が内容を確認できるようにする。 【読むこと】 「ぎょせん」の「やく目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉や文を見つけながら読み取り、大事な言葉や文に気をつけてまとめることができる。（発言・乗り物カード）
	6. 本時を振り返る。 ○本時の振り返りをノートに記入する。 ・大事な言葉を書くことができた。 ・どんなふうに短くするのがわかった	

(3) 評価

	十分満足と思われる児童の姿	おおむね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
読むこと	漁船の「やく目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけ出し、乗り物カードに短くまとめることができる。	漁船の「やく目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を見つけ出し、乗り物カードにまとめることができる。	前時までの乗り物カードを見せ、線を引く場所や、短くまとめる方法を助言する。

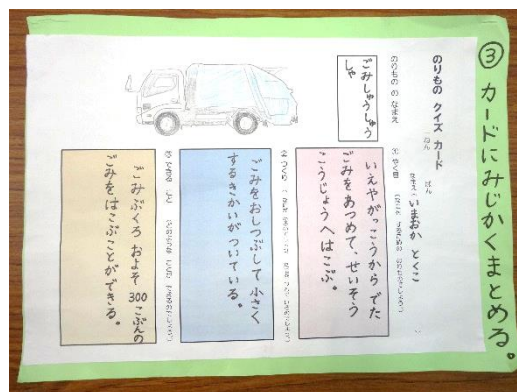
(4) 研究の視点

学習活動の内容に合わせて、スクリーンと板書を使い分けたことは、大事な言葉や文を見つけ、カードにまとめるために有効であったか。

8. 指導の実際と考察

(1) 教材・学習課題との出会いの場の工夫 研究の視点(1)－①

本単元への興味・関心をもたせるために、導入で、教師が乗り物に関連する本を見て作成した「クイズカード」で児童にクイズを出題し、「乗り物クイズ大会」を開催することを伝えた(図4)。クイズを作り、クイズ大会をすることは児童にとって魅力的な活動で、単元の当初から「早くクイズを作りたい。」という声が聞かれた。クイズ大会を目標に、朝読書や休み時間に、乗り物の本を開く姿がよく見られた。11月中旬に行ったこども園年長さんとのクイズ大会まで、楽しく意欲を継続させることができたことは、児童の意欲を引き出すのに適した学習課題であったからだと考える(写真1)。



教師が作成した乗り物クイズカード(図4)

クイズを作っていく際には、自分がクイズにしたい乗り物を調べられるように、学校司書と連携し、学級に乗り物の本、図鑑を置き、いつでも読むことができる環境を整えた。調べた乗り物は「のりものどくしょカード」に記録し、読んだ本の内容をいつでも確認できるようにした。児童は意欲的に乗り物を調べていた。普段あまり本を手にとらない児童もたくさん読んでおり、カタ

カナが定着していない児童も、進んでカタカナを読んだり書いたりしようとする姿が見られた。児童が本を手に取りやすい環境を整えたことは、関連図書を読み進めていくのに効果的であった。



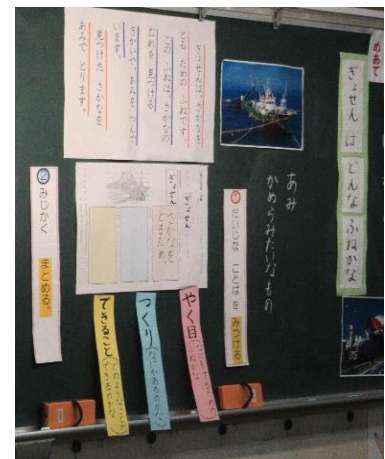
乗り物クイズ大会（写真１）

（２）ねらいや学習課題、学習の流れの明確化 研究の視点（１）－ ②

学習の流れを示したことにより、今日は何を学習するのかが分かり、学習前に「今日は〇〇の勉強だよ。」と友達と話したり、教師に確認したりする声が多数聞かれた。また、楽しみにしているクイズ作りがいつなのか、指折り数える児童もいた。単元の流れをいつでも確認できるようにしたことで、児童は今何をするか、次何をするかがよく分かり、単元の見通しをもって学習に取り組むことができた。

第二次の四つの船について読み取っていく学習では、「 はどんなふねかな」という短冊を作成し、空欄部分にその時間に学習する船の名前を貼ることで、本時のめあてを児童に示した。導入で、前時までの学習を想起したことで、児童はどのように学習が進んでいくかが分かり、「次は〇〇をするよね。」「早くクーピーで線を引きたい。」など、学習に前向きな姿勢が見られた。

めあて後半の「～だいじなことばをみつけてみじかくまとめよう～」の部分は、「①だいじなことばをみつけよう」「②みじかくまとめよう」の２枚の短冊にして、黒板に貼った。学習の始めに確認するとき、実際にその学習活動をするときに児童に示した（写真２）。児童は、どの場面で何をやらなければならないかがよく分かり、落ち着いて学習を進めることができた。



めあての短冊（写真２）

（３）個人思考を深める手立てや位置づけの工夫 研究の視点（２）－ ①

（大事な言葉や文を見つけるための手立て）

本単元で身に付けたい力は、「目的に合わせ、大事な言葉や文を見つけながら読む力」であることから、教材文から大事な言葉や文を見つけ出す際に、教科書を読みながら、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色と色分けをして教科書に線を引く活動を取り入れた。最初の客船の学習では、やく目・つくり・できることを読み取り、線を引いていくのに時間がかかったが、経験を重ねていくうちにスムーズにできるようになってきた。しかし、見つけた言葉を短くまとめることを学習していくと、不要な言葉を省いて線を引く児童が現れ、引いた線を確認するときに混乱する児童が出てきた。混乱が起きないように、大事な言葉が書いてある部分全体に線を引くよう徹底できればよかった。もしくは、線を引くのではなく、その部分を大きく囲ませてもよかったかもしれない。

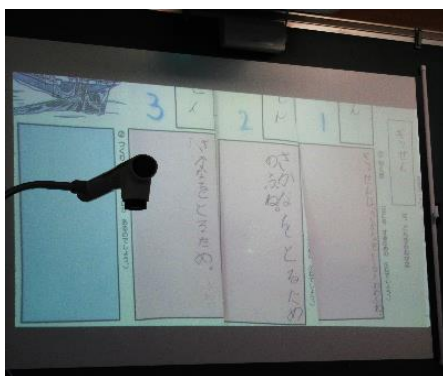
（ワークシートの活用…乗り物カード、クイズカード）

大事な言葉や文は、「やく目」は赤、「つくり」は青、「できること」は黄色に塗りつぶしたワー

クシートの枠内に短くまとめて書いていった。教科書に引いた線と、ワークシートの枠内の色が対応していたため、短くまとめるのが苦手な児童も取りかかりやすかった。

本時の短くまとめる文章をどうするか全体で共有する場面では、児童が書いたワークシートを3枚並べて、実物投影機で映し比較した(写真3)。ワークシートはまなボードにはさみ、上から文字を書けるようにした。研究協議で、「まなボードで比較したことは、効果的だった。」という意見もあったように、実物投影機を活用したことで、ワークシートを同時に大きく映し出しすることができ、一目で違いが分かり、大事な言葉に注目して考えることができた。また、みんなで話し合う時間をもったことで、短くまとめる学習を深めることができた。

本時では、「やく目」「つくり」「できること」の3つを短くまとめていく予定だったが、実際には、「やく目」「つくり」までしか進めることができなかった。全部同じようにやっていると時間は足りなくなるので、「つくり」をじっくり考えるために、「やく目」「できること」を簡単に進めていく、時間配分を考えるなどの工夫が必要であった。



ワークシートの比較(写真3)

【本時の全体での話し合い】

- T : ②のカードがだめだよっていう人、何がだめなのか教えてください。
- C1 : 「あみ」が書いてありません。
- C2 : 書いたら長くなるからいらないと思う。今日は短くまとめんといけんから。
- C : (同じです。)
- T : 「あみ」がいると思う人、5人いますね。なぜか言える人いるかな。
- C3 : 「きかい」だけじゃ魚がつかないから、「あみ」はあった方がいい。

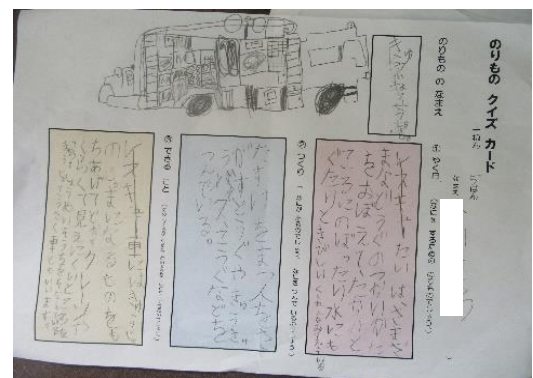
(4) 思いや考えを表現する場の工夫(思考過程の共有化) 研究の視点(2) — ②

(グループ学習)

クイズ大会の前時はグループで作成したクイズを読み合い、作ったクイズカードに書いてある文章について、正しく書けているか、短くまとめることができているかを話し合った。1年生の段階で、書いてあることについて細かく考えていくことは難しかったが、乗り物の名前を書いてしまっている児童に対して、その言葉はいらないと指摘できた児童が何人かいた(図5)。クイズ作りという活動だったからこそ、乗り物の名前を入れてはいけないことに気付くことができたのだと考える。ただ、グループ活動をしていくときに、チェックするポイント(乗り物の名前は書かない、やく目・つくり・しごとに何が書いてあるといいかなど)を示しておけば、もっとグループ活動がスムーズにできたのではないかと考える。

【グループでの話し合い】

- C4 : この乗り物の役目は、レスキューたいは、さまざまな…
- C5 : レスキューはいらんよ。クイズにするけん、そこは消さんと答えになるよ。
- C4 : あ、そうか。「できること」のところに書いとったから、ここも消さんと。



訂正したクイズカード(図5)

（５）教員のＩＣＴ活用について

研究の視点（３）にあるタブレット端末の利用は低学年では行わないが、学習のねらいを達成するため次のようにＩＣＴを活用した。

①デジタル教科書

視覚的支援として毎時間の授業でデジタル教科書を活用した。研究協議では、「デジタル教科書に色分けして書き込めば、もっと視覚化、焦点化ができたのではないか。」「写真を拡大して示せば、児童が大事な言葉を説明するときの根拠として使えたのではないか。」「動画をもっと活用すればよかった。」など、多くの改善策が示された。

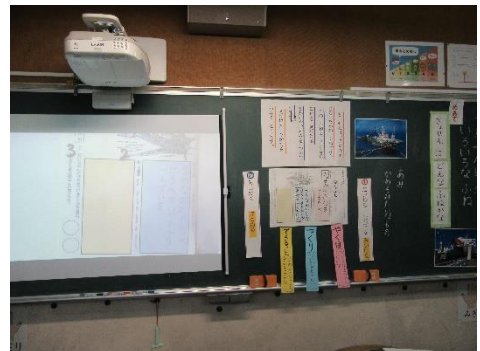
実際にデジタル教科書を使っていく中で、いろいろな課題が見えてきた。例えば、デジタル教科書に書き込みをしたくても、教科書と体裁が違っていると児童が混乱してしまう。スクリーンに、デジタル教科書か、実物投影機の画像のどちらかしか映し出せないため、書き込みが消えてしまわないようにするには、紙に書き込んだ方がよい。動画は、目から入る情報にかなりインパクトがあり、本文を読まなくても分かるため、読み取りの前に視聴するよりも、学習の最後の確かめとして視聴した方がよいなどである。これらを踏まえて、今後、より効果的なデジタル教科書の使い方を考えていきたい。

②実物投影機

説明が伝わりにくいときに誰もが学習に取り組みやすくなることをねらって、実物投影機を使って、児童が線を引いた教科書や、児童のワークシートを大きく映した。今回、並べて映すことで比較しやすくなり、学習が深まることが分かった。

③スクリーンと板書の併用

本時では、黒板の左半面のスクリーンにデジタル教科書（挿絵）と児童のカードを映し、右側の黒板にめあて、教科書本文、ワークシートの拡大版を貼った（写真４）。この方法は、児童が学習を進めていく上で、今やるべきことがよく分かり、とても有効であった。



本時のスクリーンと板書（写真４）

（６）成果と今後の課題

教材との出会わせ方を工夫し、学習の流れを明確化したことは、「この学習をがんばりたい！」「楽しい！」という児童の学習意欲につながり、課題解決への見通しをもって、主体的に学習に関わるために有効であったと考える。また、単元や授業の導入場面だけでなく、個人思考を深める手立ての工夫や、思いや考えを表現する場の工夫を行い、ＩＣＴ機器を効果的に活用したことは、児童の学習意欲の継続や、学習を深めるために効果的であることも分かった。

一方で、１年生の段階では、個人差が大きく、学習内容の理解が十分でない児童に合わせた授業の組み立てになりがちであり、理解が早い児童にとっては物足りない面があったのではないかとと思われる。友達に教える場面を設定したり、難しい課題を提示したりすることについて今後の課題としていきたい。

今回の研究を通して、児童が主体的に学ぶためのポイントをつかむことができ、単元の目標を達成するために、たくさんの手立てがあることも分かった。何を選択し、どのように活用していくか、児童の実態に応じて柔軟に考えていく必要がある。今後の実践を通して研究を深めていきたい。